

廃炉プロセス 「燃料デブリ取り出し」

検討対象 「取り出し」

課題 「PCV 内燃料デブリ取り出し」

ニーズ

1. PCV 下部に存在する燃料デブリを取り出したい

燃料デブリ取り出し：【中期】

望ましい現状とその理由

- 原子力損害賠償・廃炉等支援機構の戦略プランの「福島第一原子力発電所廃炉の基本方針」として事故により発生した通常の原子力発電所にはない放射性物質に起因するリスクを、継続的かつ、速やかに下げることが記載されている。
- 福島第一原子力発電所のリスクを低減させるためにはリスク源として特定されている PCV 下部に存在する燃料デブリを取り出すことが望ましい。
- また、燃料デブリ取り出し方針として気中工法における PCV 底部への横アクセスを先行させる観点から、取り出し方法を検討することが望ましい。

理想と現実のギャップ／解決すべき課題

- 【現状】現状の号機ごとのリスク評価を考えると、1 号機は上部の原子炉建屋がなく、3 号機は上部の原子炉建屋の代わりに燃料取り出し用カバーが存在するだけであり、一方、2 号機は原子炉建屋が健全な上、燃料デブリの多くが RPV 内に留まっていると推定されることから、RPV の損傷の程度も小さいと考えられ、管理重要度の点で差がある。潜在的影響度に影響する形状に関しては、粉体に近い状態から固体まで様々な状態を取る可能性があるが、現時点でその形状は特定されていない。特に 2 号機については、燃料デブリの多くが RPV 内に留まっていると推定され、1,3 号機と比較して熔融炉心－コンクリート反応生成物の割合が少なく安定的な形態と考えられることから、潜在的影響度は相対的に低いと考えられている。
- 【現状】研究開発については、気中工法に軸足を置き、PCV 底部への横アクセスを先行させるという燃料デブリ取り出し方針の決定を踏まえ、 α 核種の存在を前提とした閉じ込め機能の構築、PCV 内水位管理技術をはじめ、研究開発の加速化・重点化を図っている。
- 【要求】燃料デブリの更なる規模を拡大した取り出しに向け、PCV・RPV 内の更なる状況把握、燃料デブリ取り出し作業（干渉物撤去を含む）を効率化する技術、燃料デブリ取り出し作業時の放射性飛散微粒子の拡散を低減する技術、燃料デブリと廃棄物との仕分けの検討、燃料デブリの性状把

握のための分析・推定技術の開発などを進めるとともに、上アクセスによる燃料デブリ取り出しでの対応も想定した技術開発等を進めていくことが重要である。

- 【要求】 また、完全な気中ではない（水が存在する）状態における燃料デブリ取り出しも想定した技術開発等を進めていくことも重要である。
- 【要求】 エンジニアリング上の検討を通じて必要な研究開発課題を抽出し、その課題を適時的確に実施していくという、プロジェクトベースでの研究開発のマネジメントも強化していく必要がある。

（参考）関連する研究課題

実施されている研究課題

- ・ 廃炉・汚染水対策事業「燃料デブリ・炉内構造物の取り出しに向けた技術の開発」
- ・ 廃炉・汚染水対策事業「燃料デブリ・炉内構造物の取り出し工法・システムの高度化」
 - － http://irid.or.jp/_pdf/20180000_13.pdf
 - － http://irid.or.jp/wp-content/uploads/2018/06/20170000_10.pdf?v=2
- ・ 廃炉・汚染水対策事業「燃料デブリ・炉内構造物の取り出し基盤技術の高度化」
 - － http://irid.or.jp/_pdf/20180000_14.pdf
 - － http://irid.or.jp/wp-content/uploads/2018/06/20170000_09.pdf?v=2
 - － https://dccc-program.jp/files/20190711_ONET.pdf
 - － https://dccc-program.jp/files/20190716_HAMAMATSU.pdf
- ・ 課題解決型廃炉研究プログラム・若手「燃料デブリにおける特性の経年変化と環境劣化割れの調査」

検討されている研究課題

- ・ 特になし

関連する課題

- デブリ-201「燃料デブリと放射性廃棄物の仕分け」
- デブリ-214「デブリ回収戦略の構築」
- デブリ-217「燃料デブリへのアクセスルートの構築」
- デブリ-218「燃料デブリ取り出し装置・機器の開発」
- デブリ-219「燃料デブリ取り出し加工時の安全性確保」
- 輸保貯-101「性状把握」
- 輸保貯-103「計量管理」
- 処-101「性状把握」
- 処-102「廃棄物戦略」